知事コラム

もう一つのオリンピック

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの開催まであと約1カ月となりました。リオが終わればいよいよ東京オリンピック・パラリンピックです。

本県はサッカー、バスケットボール、ゴルフ、射撃の会場になります。さらに前年の2019年にはアジアで初めて、日本でラグビーワールドカップが開催され、熊谷市も会場の一つに選ばれています。今、まさにオール埼玉で準備を進めているところです。

こうした中、先日「スペシャルオリンピックス日本・埼玉」の記念セレモニー「『15年のあゆみにありがとう』の祝の会」に参加する機会を得ました。

スペシャルオリンピックスは、1968年、故ケネディ大統領の妹であるユニス・シュライバーさんが設立した国際的なスポーツ組織です。知的障害のある方たちにさまざまなスポーツトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供しています。日本では元マラソン選手の有森裕子さんが「スペシャルオリンピックス日本」の理事長をなさっています。

埼玉県でも、平成14年に「スペシャルオリンピックス日本・埼玉」が組織され、現在350人を超えるアスリートが登録されています。コーチやスタッフ、ボランティア、家族会員を含めると、優に1,000人を超えるメンバーとなります。

先日開催された「祝の会」のキーワードは「感謝」と「ありがとう」でした。障害者の皆さんをサポートするスタッフやボランティアの皆さんは、この活動の中で障害者の皆さんの隠れた才能を発見しながら、自分の足りないところや人間の潜在的な可能性を学ぶそうです。

人間は学び合うことができる、それが障害者の皆さんとの交流で得た私の「学び」です。



埼玉県知事 上田清司